



獅子島水産業の「稼ぐ力」向上

塩田県知事が獅子島を視察

海上で知事に説明



9月13日、塩田康一県知事が「特定離島ふるさとおこし推進事業幣串地区貯水槽整備」の竣工イベント出席のため、獅子島を訪れ、併せて幣串漁港浮消波堤や新旅客船「ししじま」、ブリ養殖の生簀とその赤潮対策状況などを視察しました。

視察中、ブリについては、稚魚から3年かけて養殖を行うことや赤潮対策の方法、浮消波堤については、その機能と整備効果などを塩田知事に行政および地元漁業者などが説明しました。

この日、「特定離島ふるさとおこし推進事業幣串地区貯水槽」の竣工イベントは、立石港で行われ、塩田知事や地元県議会議員、県、町、地元関係者約40人が参加しました。

設置された貯水槽（100t）は1基で、配水管253本を地中埋設し、ブリの稚魚を消毒するために必要な淡水を同地区の川から港まで

供給。これまでよりも時間短縮や経費削減が図られ養殖業の促進に寄与するものです。

幣串自治公民館の池田守彦館長は「浮消波堤整備に続き、貯水槽の整備など感謝している。地元水産業のさらなる発展に尽力していきたい」とあいさつ。塩田知事は「同地区は、鰯王の生産活動を支える拠点としても重要な役割を担う、県としても水産業の『稼ぐ力』を引き出し、各種対策に取り組んでいきたい」とあいさつしました。

知事と町長で初開栓



放水量を確認



貯水槽と送水口の位置関係

